



岩崎元郎さんと行く“地球を遠足”&『山の遠足』

ぶらんぶらん通信

2018年 初夏号

こんにちわ、時間が経つのは早いものですね。年が明けたのはきのうのような気がするのに、はや4月下旬、本年も三分の一が過ぎ去ってしまった。暑かったり、寒かったり、お天気はグズグズしているなか、“地球を遠足”は順調に回を重ねている。

1月はスリランカのアダムスピーク、2月はボリビアのウユニ塩湖、3月は番外編でグリンデルワルトでスキー、毎回天気に恵まれ楽しく日程を消化している。

4月は、19日に出発した南フランス・ハイキングとサント・ヴィクトワール山登頂。4日目のカラंक・ハイキングがぼく的には非常に楽しみ。ぼくらが修業時代に憧れたフランスの名クライマー、ガストン・レビュファールを育てたのが、カラंकの岩場だ。レビュファールが来日、有楽町の読売ホールで開催された

講演会は超満員、ぼくも後ろの方で背伸びして聞いていた。憧れのレビュファールのカラंक、ワクワクしちゃいます。毎回ワクワクさせてくれるのが、“地球を遠足”の魅力ではあるまいか。

この南フランスが91回目。92回は韓国・月出山と辺山半島ハイキング、近くて良き山である。93回はスペイン最高峰テイデ山登頂とカナリア諸島。花が素晴らしい。参加を希望する方、募集人数が少ないので残席を確認して下さい。

94回が7月4日～13日のアゾレス諸島ハイキングと古都ポルト探訪。ぼくも初めてのポルトガル。司馬遼太郎さんの「街道をゆく『南蛮紀行』」を読んで以来、一度訪ねてみたい国だった。ワクワクです。

国内の山旅「山の遠足」では、吉田口登山

道の馬返し・一合目から登る富士山が8月21日～23日、一日目五合目佐藤小屋で泊。二日目山頂に立ち下って佐藤小屋に泊、ここがミソ。馬返しから山頂をめざすというダイナミックな富士登山に、余裕もってチャレンジできる。9月25日～27日は隠岐の島を計画している、これも楽しみ。

アルパインツアーの企画チームは、来年の企画を考えはじめています。どこか行ってみたい山や国はありませんか。そんな山や国があったら、遠慮なくリクエストして下さい。

楽しく夢のある“地球を遠足”「山の遠足」を、これからも皆さんで創り上げていきたいと思っています。



岩崎 元郎 (いわさき もとお)



ランタン谷 (11月 ネパール)



タスマニア (12月 オーストラリア)



北ハケ岳 (12月 長野県)



アダムスピーク (1月 スリランカ)



レッツ・スキー! 蔵王 (2月 山形県)



レッツ・スキー! グリンデルワルト (3月 スイス)



奄美大島 (3月 鹿児島県)



南フランス (4月 フランス)

“地球を遠足” 第94回



ポルトガル、アゾレス諸島ハイキングと 古都ポルト 10日間

- 旅行期間：7月4日(水)～7月13日(金)
- 旅行代金：540,000円 東京発着

※燃油サーチャージ(4月20日現在：目安約25,500円)が別途必要です。今後変更となる場合は、ご旅行代金ご請求の際にご案内いたします。詳しくは、P.4をご覧ください。

●●私がお案内します●●

ユーラシア大陸の最西端ポルトガルを訪れ、さらに本土から約1,500km離れた北大西洋に浮かぶアゾレス諸島に足を延ばします。これまで日本では紹介される機会が少なかったエリアですが、期待を越えるのどこかで美しい自然が広がっています。特に7月は一年で最も晴天率が高く、また、江戸時代に日本から持ち込まれたアジサイが島中に咲くベストシーズンです。現地との十分な打ち合わせを重ね、充実の内容でご案内いたします。リスボン、ポルトでの滞在も楽しみです。ぜひ、この機会にご一緒しましょう。



芹澤 健一 (せりざわ けんいち)

旅行企画・実施

ALPINE ツアー サービス 株式会社

東京 / 〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 (第7東洋海事ビル4階) ☎03 (3503) 1911

大阪 / 〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 (TCF肥後橋ビル2階) ☎06 (6444) 3033

名古屋 / 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千福ビル3階) ☎052 (581) 3211

福岡 / 〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-2-8 (セントラルビル5階) ☎092 (715) 1557

広島 / 広島サービスステーション (大阪支店転送電話) ☎082 (542) 1660

仙台 / 仙台サービスステーション (東京本社転送電話) ☎022 (265) 4611

北海道 / 北海道地区総代理店(株)りんゆう観光 〒060-0909 札幌市東区北9条東2丁目 ☎011 (711) 7106

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

※ツアー・カタログはお電話、またはE-mailにてご請求ください。

☎03 (3503) 1911 FAX.03 (3508) 2529

☎06 (6444) 3033 FAX.06 (6444) 3032

☎052 (581) 3211 FAX.052 (561) 8338

☎092 (715) 1557 FAX.092 (715) 0826

☎082 (542) 1660

☎022 (265) 4611

☎011 (711) 7106 FAX.011 (731) 1456

営業時間のお知らせ

●平日：9:30～18:30 ●土日祝：定休

りんゆう観光営業時間 ●平日、土曜日、祝日：9:00～17:00 ●日曜：定休



“地球を遠足”メンバー紹介

“地球を遠足”は14年目に入りました。岩崎元郎さんとお客さま皆さままで作り上げてきた“地球を遠足”と『山の遠足』を、これからも、もっともっと楽しんでいただけるように、チーム・スタッフ一同がんばってまいります。どうぞよろしく願いいたします。



岩崎 元郎 (いわさき もとお)

日本が元気を取り戻すために「一億二千万人総登山者化計画」を提唱。『山登りを始めたら読む本』他、『山で失敗しない10の鉄則』、『ぼくの新しい日本百名山』、『今ここにある山の危険』、『間違いだらけの山登り「知らなかった」ではすまされない62項目』など著書も多数。無名山塾主宰、登山インストラクター。



芹澤 健一
(せりざわ けんいち)
東京本社

2005年に第1回目の“地球を遠足”ネパールに同行してから14年。今年は7月4日発のアジサイが満開となるアゾレス諸島に同行します。



山田 勝
(やまだ まさる)
東京本社

全国各地で開催している「岩崎さんの健康登山講座」の次回は函館や福井を計画中です。ぜひ最寄りの方は岩崎さんに会いに来てください。



川高 雄
(かわたか ゆう)
東京本社

100回へ向けて“地球を遠足”らしい楽しい企画を考案中。初めての方も2度目以上の方もきっと素敵な仲間に出会えるはずです。



寺井 信之
(てらい のぶゆき)
東京本社

10月のインドネシアは、コモド・ドラゴンで知られるコモド島とジャワ島ボロブドゥール遺跡を組み合わせた特別な企画です。



林 知篤
(はやし のりあつ)
東京本社

地球を遠足のカナリア諸島はタビナスの花が、アゾレス諸島ではあじさいが咲くベストシーズンに訪れます。ぜひご参加ください。



白旗 美紀
(しらはた みき)
東京本社

遠足第100回を目指して今後も期待の企画が目白押しです！初めての方も、久しぶりの方も岩崎さんと一緒に地球を歩きましょう！



橋本 香織
(はしもと かおり)
ツアーリーダー

4月に南フランスのコースに同行しました。今年もたくさんの遠足ファンの皆さまと一緒できることを楽しみにしています。



竹森 壮孝
(たけもり まさたか)
大阪支店

島全体がジオパークに指定される隠岐の島へ同行いたします！久々の同行に今から気合が入っております。ぜひ一緒しましょう！



塚本 悦子
(つかもと えつこ)
大阪支店

地球を遠足はアウトホームな雰囲気魅力です。岩崎さんと一緒にご参加の方が一つの仲間となるよう盛り上げていきたいです。



前田 拓哉
(まえだ たくや)
名古屋営業所

“地球を遠足”が始まった2005年に入社。岩崎さんの人柄、笑顔、歌声に楽しさが倍増します。ご一緒できることを楽しみにしています。



宇津木 健
(うつぎ けん)
名古屋営業所

ゆっくり楽しく！山好きの仲間とまだ見ぬ世界に出かけましょう。初めての方もすぐ打ち解けます。お気軽にお問合せください。



渡部 秀樹
(わたなべ ひでき)
福岡営業所

昨年久々に福岡で健康登山講座を行い盛り上がり、九州でも地球を遠足は岩崎さんと一緒だから安心だと嬉しい感想をいただきました。

2018年 第89回 1月14日出発 スリランカの聖山 アダムスピーク登頂 9日間

文：寺井 信之 (東京本社)

“地球を遠足”第89回は9名のお客様とスリランカを訪れました。スリランカは紅茶の産地として有名です。インドのダージリン、中国のキーマンと並び、スリランカのウバは世界三大紅茶の産地の一つとされています。旅の前半ではそのウバを訪れ、茶畑の中をハイキングしました。朝早い時間帯にもかかわらず茶摘みの女性たちが、傾斜地に延々と広がる茶畑に点在し、彩りを添えていました。話を聞くと、多い人で1日に18kgも茶葉を摘むというから驚きです。ウバには一代で世界的な紅茶ブランドを築き上げた、有名なリプトンの茶畑もあります。ここではスリーウィーラーと呼ばれる電動3輪車に乗ってリ

プトンズシートと呼ばれる展望地を訪れました。茶畑を眺めながら飲んだオレンジペコは絶品でした。

続いて訪れたのはスリランカの最高峰ピドゥルタルーガラ(2,524m)です。最高点は軍事施設になっており、今まで登ることはできませんでした。しかし本年から一般観光客にも開放されたという情報が入り、皆さんの希望もあり急遽訪れることになりました。山麓でパスポートチェックを受け一気に山頂部へ移動します。駐車場から最高点までは歩いて5分で到着です。ライフルを持ったスリランカ軍人に笑顔で迎えられた登頂はなんとも不思議な気分でした。

いよいよアダムスピークに挑戦です。この山は仏教、ヒンドゥー教、イスラム教の聖地として知られ、世界中から参拝者や観光客が訪れます。深夜に出発し、山頂まで5,000段以上の階段を登ります。山頂部は大混雑で、私たちが到着した時間はちょうどプージャ(礼拝)の時間でした。神聖な雰囲気と登頂した喜びが入り交じり、お客様の1人が「こんなに素敵な山だとは思わなかった」と涙をためながら話されていたのがとても印象的でした。プージャが終わると一斉に下山がはじまります。夜が明けた山中は朝日を浴びて光り輝いていました。まさに聖地にふさわしい光景でスリランカの山旅を満喫いたしました。



▲スリーウィーラー(電動三輪車)で茶畑を登る



▲金網に囲まれたピドゥルタルーガラの山頂



▲ワールドエンドで世界の終わりをイメージした写真



2018年
第90回 2月9日出発 ボリビア・雨季のウユニ塩湖と太陽の島滞在 11日間

文:白旗 美紀(東京本社)

記念すべき“地球を遠足”第90回は、ボリビアへと訪れました。正式名称「ボリビア多民族国家」であるボリビアは、南米一先住民族の割合が多い国として知られています。旅の玄関口は、標高3,600mを越える世界最高所の首都ラパスです。すり鉢状の形状の街には赤茶色の日干し煉瓦の建物が所狭しと立ち並び、カラフルな民族衣装を着たインディオの女性たちが街中を闊歩しており、遙々南米の地まで来たことを実感しました。旅の始まりはゆっくりと、標高の低いカラコト地区に連泊し、ティワナク遺跡へと観光しながら高所に徐々に体を慣らしてきました。



▲ウユニ塩湖のプラヤブランカにて

そしていよいよメインである「ウユニ塩湖」へと旅路を進めます。ウユニ塩湖はアンデス山脈が隆起した際に海水が残って生み出された塩湖です。4WDを走らせて塩湖へと向かうと、その広大さには驚きました。琵琶湖の16倍と言われる塩湖は地平線がどこまでも続いています。この時期は雨季明けとなり、一面に薄く水が張り、天地が逆転したような鏡張りの世界が広がります。吸い込まれそうな景色に心を奪われました。夕暮れに刻々と色を変える塩湖は何とも言えない美しさで、言葉にならない程でした。地平線に沈む夕日を眺めながら、サプライズのワインで皆で乾杯し、忘れられない瞬間となりました。



▲鏡張りの塩湖を4WDで移動する

旅の最後にはインカ発祥の地と言われるチチカカ湖の太陽の島を訪れました。島には車がなく、今でも荷運びにはロバが活躍しています。段々畑の中を歩くロバや、ゆったりとした時間が流れる島の生活を垣間見ながら、気持ちの良いハイキングを楽しみました。島では、環境に配慮したエコロッジに連泊しましたが、素材の旨味そのままのお料理の美味しかったこと！太陽をたっぷり浴びて育った作物はどれも味が濃く、豊かな大地の恵みを感じることができました。

ラパス、ウユニ、太陽の島とそれぞれに違った自然景観に驚き、ボリビアの壮大さを感じる充実の11日間となりました。



▲太陽の島のトレイルを歩く

2018年
レッツ・スキー! 3月4日出発 グリンデルワルトゆったりスキー 7日間

文:橋本 香織(ツアーリーダー)

スイスのグリンデルワルトに滞在し、岩崎さんと全国各地からお集まりいただいた12名のお客様とスキーを楽しんで来ました。初日はフィルストのエリアを滑りました。フィルスト展望台(2,167m)からは谷を挟んで、アイガー、ヴェッターホルン、シュレックホルンなどをばっちり見ることができました。午後はフィルスト展望台からさらに奥の標高の高い所を滑りました。雪質も良く、アルプスの白き峰々に滑り込んで行くようなスキーコースに初日から皆さん、大興奮でした。

2日目は登山鉄道でクライネシャイデック(2,061m)まで上がり、終日スキー三昧です。アイガーの周囲に何本もとつけられた

長いリフトに乗り、アイガー、メンヒ、ユングフラウなどを見ながらのロングクルージングです。ハイキングに比べて、スキーではあつという間に移動が可能のため、様々な角度から山容を眺める事ができるのが魅力です。

3日目はミュレンまで足をのびました。登山鉄道、ロープウェイを乗り継いでシルトホルン展望台(2,970m)へ。あいにくの曇り空でしたが時折パーっとガスが切れ、アイガー、メンヒ、ユングフラウが姿を見せてくれました。「ユングフラウ、大きい!!」との声が上がりました。

4日目は雲ひとつない晴天! 登山鉄道でユングフラウヨッホ展望台(3,454m)まで上

がり、メンヒ、ユングフラウを間近に、雪が積もって真っ白なアレッチ氷河を眼下に望みました。帰りはクライネシャイデックからグリンデルワルトまで、一気にスキーで滑りました。ヴェッターホルン、グリンデルワルトの街が徐々に近づいてくる絶景ロングコースです。

今回はグリンデルワルトでは老舗の高級ホテル「ベルベデーレ」に5連泊滞在しました。アイガーが目の前に見え、お部屋も広く、お食事も美味しく、ジャグジーなども気持ちよく、ゆったりとお過ごしいただけたようです。

最後に岩崎さんとご参加のメンバーとで「来シーズンもレッツ・スキー! で海外を滑ろう!!」と、盛りあがりました。



▲アイガー北壁をバックに



▲ユングフラウヨッホ展望台からユングフラウを望む



▲グリンデルワルトを目指して滑る